

青年の模索によりそい、展望ひろげる役割を

——大きな民青同盟をつくるため、みんなの力をあわせよう

2010年10月29日 日本民主青年同盟中央委員会

「自分を認めてくれる仲間ができて、人と自分を比べて落ち込むことが少なくなった」「班ごとに学んだことを発表し、民青の学習のおもしろさに気づいた」「国会要請に参加して、自分たちの行動で政治を動かせるんだと感じた」——「民青同盟に出会えてよかった」という思いが交流されています。その魅力と役割を全国各地でも発揮し、もつと大きな民青同盟をつくっていくために何が大切か——みんなで考えることをよびかけます。

1、青年の探求・模索と民青同盟の役割

(1) 民青同盟の基本的性格が未来をひらく力

●青年の願い、模索と日本政治の1年

「どうすれば貧困をなくし、若者がまともに働ける社会になるのか」「『基地のない沖縄』『核兵器のない世界』をつくることはできないのか」——仕事や生活に追われ、将来に不安を抱く青年も、毎日の生活を楽しく送っている青年も、真剣に考えています。長期化する失業や就職難、給与・ボーナスの削減や長時間過密労働、高い学費などに直面し、競争と「自己責任」の重圧によつてガマンを強いられながら、「なんとかしてほしい」と願っています。沖縄の米軍基地撤去を求める世論と運動の高まり、核兵器廃絶へむかう世界の激動のなかで、「自分に何ができるのか」との思いをめぐらせています。反貧困ボランティアや環境を守る活動などに参加し、社会の現実とむきあい、声をあげる青年もひろがっています。

昨年総選挙で青年の「この現実をかえたい」との思いは自公政権にピリオドをうちました。しかしそれ以来一年、代わった民主党政権は、アメリカと財界の圧力に負け、「抜け穴」だらけの労働者派遣法「改正案」や法人税減税のための消費税増税をうちだし、米軍基地を沖縄・辺野古におしつけようとするなど次々青年の期待と公約を裏切り、今や古い自民党政治と何ら変わらない財界・アメリカいなり政治を進めています。昔民主党政権に、「たいして変わらないじゃないか」「国民の声を聞いているのか」と、青年から冷たい視線が注がれています。

7月参議院選挙で多くの青年は、「民主党に失望したが、自民党にも戻りたくない」との思いを抱えています。しかし、「自民か、民主か」の選択をおしつける「二大政党づくり」のもとで、自分の願いを託せる道が見えずに、とまどいながら投票行動を決めざるをえませんでした。「正社員を増やしたら企業がつぶれてしまうのか」「米軍基地をなくして日本の安全は守れるのか」「本当に政治はかえられるのか」——青年のなかで「あきらめ」の気持ちと「何とかしたい」「気持ちがせめぎあっています。この探求と模索は、青年の切実な願いや実態の解決をもとめて発展せざるをえません。」

●“ほんとはこうしたい”…切実な願いを政治を動かすエネルギーへ

『核兵器はなくせる?』『なくせない?』の意見交換から核兵器問題を学習」「自分史交流や」3スピ」を重ねるなかでほとんどしゃべらなかつた仲間の要求が見えてきた」——民主党政権が青年の願いに背をむけ、政治への模索がうずまくなか、民青同盟は「何でも語りあい、どんなことでも一人ひとり

の声にこたえて学び行動する」班活動を大切に、「全国青年大集会2010」と雇用と暮らしを守る運動、NPT再検討会議や原水爆禁止世界大会にむけた核廃絶のとりくみなど、切実な願いの実現に力をつくしました。「知りたいこと」「わからなかったこと」にねざして、食べ物企画やディベート、クイズをもちこんだ多彩な学びがひろがり、青年・同盟員みんなが学ぶ楽しさを発見し、成長を支えあうことを大事にしました。

参議院選挙では「自分にとっての選挙」を語り合い、日本共産党の前進が新しい政治をつくる一番の力になることを学び、「Myうったえ」やつどい、メールやインターネット上の結びつきを生かした対話にとりくみました。「消費税増税は仕方ない」「政治はかわらない」との閉塞感も寄せられ、日本共産党への投票に結びつけるには苦労がありました。民青同盟が「仕方ない」「かわらない」という声の奥にある「ほんとはかえたい」思いに心をよせて交流し、模索によりそい展望をひろげる力に磨きをかけたことは大変重要です。また、今後民青同盟の仲間を増やし、日常的に政治の異常を学んで政治をかえる力をもっと大きくしていくことも大事な教訓です。

全国大会後の活動をふりかえると、「青年の連帯をきずき、成長を支え合い、行動にふみだす」居場所づくりの努力とともに、「青年の模索によりそい展望をひろげる」活動が大きな力を発揮してきました。青年の模索に民青同盟はどうこたえてきたでしょうか。

——「仕方ない」「かわらない」という言葉の奥にあるガマンさせられている実態、「ほんとはこうしたい」という切実な願いを語り合い、青年との連帯をきずく。

——科学的なものの見方・考え方、青年の要求や生きづらさのおおもとにある異常な政治、社会をかえる道筋をつかめる科学的社会主義と日本共産党綱領を学び、「かわるかもしれない」「かえられるのでは」という希望の芽をはぐくむ。

——要求実現をめざして実際に政治に働きかけ、「声をあげれば政治は動かせる」という確かな手ごたえをつかみ、語りひろげる。

このように、私たちは青年に「社会はかわるし、かえられる」との展望をひろげ、「ほんとはこうしたい」という願いから政治を動かすエネルギーをつくりだしてきました。その根本には、青年の願いの実現に力をあわせるとともに、日本共産党を相談相手に科学的社会主義と日本共産党綱領を学ぶという基本的性格の力があります。青年の探求・模索にこたえて、いま民青同盟が日本社会を覆う閉塞感乗り越え、未来をひらく役割を發揮するときです。一人ひとりの青年の願いや模索にこたえるためにも、青年が大切にされる新しい社会をつくるためにも、仲間を迎え、班の結成と地区再建をすすめ、大きな民青同盟をつくるために力をあわせましょう。

（2）青年とともに進める班活動——要求にこたえ、模索によりそい、政治を動かす

「みんなで教材をもちよって秋の味覚祭りを開催」「地方議会への要請をめざして若者アンケートをスタート」「班で古典学習をはじめた」——9月のよびかけにこたえ、新たな班プランがつくられはじめています。スポーツ大会、粉もんパーティー、恋愛・人間関係しゃべり場、「民青新聞」「われら高校生」を使った学習、ハローワークアンケート調査など、「交流」「学び」「行動」する班活動がひろがっています。つながりのある青年といっしょに班プランを具体化・実行し、青年にひらかれた居場所をめざして班活動をすすめましょう。

●「まともに生活できる仕事を」「基地のない沖縄を」「お金の心配なく学びたい」——要求実現の展望を学び交流しながら

「時給635円のバイトで生活。正社員の仕事が全然ない」「就職活動で3年生から大学の授業に出られない」——仕事の自分史交流、職種別のつどい、実態アンケートなどで、青年・同盟員の仕事や暮らしの実態をリアルにつかみ、政府・自治体に届けましょう。学生班と県・地区委員会で、「就活カフェ」や働く先輩をよぶ企画など進路や就職について語りあい励ましあえる場をつくるとともに、会社説明会や就職セミナー、大学などで実態調査を行い、就職活動の実態を告発しましょう。また、学費値下げと奨学金・学費免除制度の拡充や、大学予算削減ストップの運動にも取り組みましょう。

沖縄のたたかいと連帯し、学習と交流を大切にしながら、米軍基地撤去をめざすシル投票と一言メッセージで宣伝行動をひろげます。沖縄県知事選挙（11月28日投票）が告示される11月11日（木）〜18日（木）の1週間、「米軍基地撤去を求める全国いっせい行動」にとりくみ、「沖縄の思いを無視しないで」「日本のどこにも米軍基地はいらない」という青年の声を集めましょう。

「どうしたら正社員を増やせるのか」などの声にこたえて要求実現の根拠と展望を学ぶこと、青年大集会DVDなどを活用して政治を動かせる実感を知らせることを重視します。青年の雇用や暮らしを支え、平和を発信する地方自治体をつくるチャンス——来年の「いっせい地方選挙」をめざして、地方自治体の役割や現状についての学習、日本共産党の地方議員・候補者を招いたつどいにとりくみましょう。

●綱領・科学的社会主義の学習——「綱領・古典の連続教室」を生かして

「心の中で思っていた『残業代ほしい』『連休くれよ』という思いが間違っていなかったと元気がでた」「マルクスや小林多喜二の本気で生きる生き方に心をうごかされた」——9月にひらかれた「学ぶつながるかえられる」講座では、政治をどうかえていけば青年の願いを実現できるのか、民主的改革のプログラムや未来社会への展望を学びました。とくに、綱領と科学的社会主義を自分の生き方にひきつけて学び、多くの参加者が「社会をかえたい」「かえていける」との確信を深めたことは重要です。日本共産党綱領と科学的社会主義を学ぶことが、自己責任論を乗り越え、「ほんとはこうしたい」という思いを励まし、「あきらめ」「から」「希望」への架け橋となって社会をかえる生き方への一歩を育んでいきます。

12月から日本共産党が「初心者にもわかりやすく、おもしろく」をモットーにひらく「綱領・古典の連続教室」は、楽しく継続的に綱領と科学的社会主義を学ぶ絶好の機会です。夕食交流会や要求しゃべり場、学びの自分史交流、「〇×クイズ」などとセットで、学習も交流も充実した「自分たちのつどい」にしてとりくみましょう。講義を聞けなかった仲間と視聴会をひらいたり、「わからなかったこと」もいっしょに考え、みんなが最後まで受講できるよう班で支えあいましょう。

2、未来をひらく大きな民青同盟をめざして

「班員の声を聞き流さないで、どんなことでも実現してきた」「人数が少なくても班会議をひらいて、集まることを大切にしてきた」——全国の職場・地域・学園で、一回一回の班会議をなにより大切に、魅力ある班活動をつくろうと力をつくしてきました。出された声、つぶやいた願いを一つ一つ実現していく努力を積み重ね、同盟員・青年の願いや模索に深くねざして活動する民青同盟をつくってきたことは、青年を民青同盟の仲間を迎えていく新たな条件と可能性をひろげています。

第3回中央委員会は、第34回大会決定にもとづいて班の魅力を輝かせることをこれからも大切にする

とともに、民青同盟の仲間を増やし、大きな民青同盟をつくるため、みんなの知恵と力をあわせることを心からよびかけます。

(1) 仲間を増やし、大きな民青同盟をつくる意味を話し合おう

「残業代は半分しかつかない。でも働いているだけマシかな」「なんで日本はアメリカに何も言えないのか不思議」「学校ではキャラをつくっている。本当は人と話すのが苦手」「自分のやりたいことが見つからない。進路や就職を考えると重くなる」——班活動や企画で結びついた青年、班員の友人や同僚、宣伝で出会った青年など、みなさんのまわりの青年はどんな実態や願い、模索をもっているでしょうか。「よく知らないな」と思ったら、実態アンケートや同盟員アンケート、署名や折り鶴を使って聞いてみるのが大切です。

その青年にとって民青同盟に加盟することはどんな意味をもっているでしょうか。「民青に入って、自分の気持ちをちゃんと話せるようになった」「社会はかえられると希望がもてた」——一人ひとりの民青同盟の魅力をふりかえってみてください。その魅力いっぱい民青同盟は、今はまだ加盟していない青年にとっても大切な存在になるかもしれません。

この社会のなかで民青同盟が大きくなることはどんな意味をもっているのでしょうか。新しく加わった仲間が、願いを実現する展望をつかみ、「社会をかえる主人公」として成長することは、青年がガマンを強いられている今の社会をかえる力をもっと大きくしていくことになるのではないのでしょうか。

県・地区・班それぞれで、まわりの青年の願いや模索と結んで「青年を仲間を迎えることの意味」「大きな民青同盟をつくる意味」を話し合うことが大事です。「仲間を迎えて自分の職場や学校に班をつくりたい」「毎年卒業生を上回るメンバーが増えていく班になりたい」「地域で存在感を示せる大きな地区を迎える目標をつくりましょう。また、2010年12月末までのプランと節目標をつくり、仲間を増やして2011年を迎えましょう。」

第3回中央委員会では、高校生の願いにこたえ仲間を迎えることを呼びかける「アピール」を出しました。県・地区委員会などで討議し、高校生分野の前進のために力を合わせましょう。

(2) 県・地区委員会と班が相談し、力をあわせて新しい仲間を迎えよう

「友だちに民青を知ってもらって、今までよりも関係が深くなった」「班会に誘ったらすごく楽しそうにしている、民青の大事さを実感できた」——仲間を増やす活動は、まわりの青年と願いや模索を語り合い、民青同盟の魅力や役割も実感できる、楽しくやりがいのある活動です。「公開班会に誘って、『3分間スピーチ』や『民新』を読み合わせて加盟をよびかけた」「日本共産党から紹介された青年を班のみんなで訪問」「実態アンケートで連絡先を書いてくれた青年に電話してみた」「大学でチラシを配った知らない学生が企画に来てくれた」など、青年との結びつきも、実際に仲間を増やす工夫や努力も多彩です。「やってみようかな」「あの人に声をかけたいな」という思いを大切に、どんな人にどう働きかけるか、県・地区委員会のリーダーや経験のある同盟員、日本共産党の方と相談し、知恵と力をあわせてとりくんでみましょう。

「加盟をよびかけて断られたらどうしよう」「どう声をかけたらいいのか分からないし、自信がない」などの不安やためらいもあります。「まずは署名や実態アンケートからお願ひしてみた」「班会に誘ってみるならできる」など、どんな小さなことでも、一人ひとりの挑戦、ふみだした一歩一歩を支えあい、うまくいかなかったことや悩みがあればみんなに相談し、励ましあってとりくみましょう。

同時に、仲間に迎えてこそ、力をあわせて願いを實現できるし、いっしょに成長し、充実した人生を送ることもできるのではないのでしょうか。仲間が増えれば班活動もさらに魅力あるものに発展するのではないのでしょうか。加盟するかどうかは働きかける相手が自分の思いで決めるものです。「僕は加盟してこんなところがよかったよ」「私はあなたといっしょに活動していきたいと思っています」という気持ちを素直に伝え、加盟をよびかけましょう。

社会のしくみの「そもそも」が分かり、かえていける展望が見えてくる「民青新聞」「われら高校生」の値打ちが光っています。「民新の『班活動スペシャル』の記事を読んで、班でやりたいことが見えてきた」「来ていない同盟員に手紙と一緒に届けたら、『民新読んだよ』ってメールがきた」など、機関紙を活用することで、班活動が充実し、青年や同盟員と結びつく力になっています。班会議や加盟のよびかけなどさまざまな場面で機関紙を活用し魅力を伝え、同盟員・青年に購読をよびかけるとともに、配達・集金に力をあわせましょう。

(3) 地区委員会再建と再建後の発展をめざして

「地区をつくって身近なところに班活動の相談相手ができた」「自治体要請やスポーツ大会など、大きなとりくみもできるようになった」「地域にどんな民青をつくるのか真剣に考えるようになった」——地区委員会の再建は、民青同盟の魅力と役割をいっそう豊かに発揮していくためにも、地域・職場・学園に根をはった大きな民青同盟をつくる上でもカナメです。班が少数のところや班活動に苦勞している地域でも、班のリーダーの輪をつくり、地域協議会をひらいて班活動の交流・相談をはじめることが大切です。大会決定や中央方針をみんなで討議・具体化・実践する活動経験を重ね、新しい仲間と班を増やし、地区再建の展望をきりひらくことをめざしましょう。

再建した地区委員会の前進・発展をめざすために、「3分間スピーチ」や誕生日会、地区合宿などの交流・連帯の努力とともに、科学的社会主義と日本共産党綱領、民青同盟の大会決定・組織活動の学習と交流を大切にし、リーダーの人的連帯を「民青同盟と地区委員会の前進をいっしょにめざし、支えあう」仲間の輪へ発展させましょう。

(4) 財政活動——「民青を支えたい思い」を伝えて

民青同盟の魅力と役割を支えているのが財政活動です。「財政・機関紙活動のしおり」や大会決定を学び、同盟費の納入、機関紙代の集金、冬期募金の3つの分野のとりくみをすすめる、財政の確立へ力をあわせましょう。班会議に参加していない同盟員や、連絡がつかない同盟員ほど、切実な実態を抱え、参加できない自分を責めていることも少なくありません。すべての仲間に声をかけ、願いや関心を聞いて班プランにもりこむ活動と一体に、「自分にとつての民青の魅力」「民青を支えたい思い」を伝え、同じ仲間として率直に同盟費の納入をよびかけましょう。

青年の模索によりそい、展望をひろげ、大きな民青同盟をつくるため、みんなで力をあわせましょう。

以上

高校生の成長を支えあい、高校生班活動の前進へ力をあわせることを心からよびかけます

2010年10月29日 日本民主青年同盟中央委員会

1、高校生の援助へ県・地区委員会みんなの総力を——高校生の成長と自らの成長を重ねて

●高校生を支える”お兄さん””お姉さん”はかけがえのない存在

「点数のためではなく自分のための学びに出会えた」「民青の魅力は悩めること。自分がどんな意見なのかふりかえって、自分が分かる」——班活動のなかで、高校生は生きること、学ぶことの喜びを見つけていきます。「相談員さんが話を聞いてくれるのがうれしい」「民青の人に言われて人を見下している自分に気づいた」——高校生といっしょに活動し、ともに悩み生き方を考える”お兄さん””お姉さん”、大人の存在は、高校生のかげがえのない心の支えであり、成長の支えです。「話を聞くだけで元気になって帰っていく高校生を見て自分も元気になれる。人間っていいなと思うようになった」「高校生を苦しめる社会を本気でかえたいと思うようになった」——高校生を支えながら、自らも成長するのが高校生分野の活動です。『ここにいる人たちは裏切らないから』と、はじめて悩みを話してくれた「いっしょに活動してきた高校生が班を卒業するとき、『民青で自分を見つけられた』と話してくれて涙が出た」——成長していく高校生の姿に、やりがいもいっぱいです。

●高校生応援チームをみんなでつくる

多くの高校生が、元気な笑い声の奥にさまざまな不安を抱えています。「学費が高いから親にだまっで夢をあきらめた」「中学でいじめられてから、同年代と話すのがいまでも苦手」「就職は難しいって聞く。やりたいことも決まっていなくて不安」——素っ気ないそぶりの裏側に、”どう生きるか””なぜ学ぶのか”の模索を抱えながら、毎日を生懸命に生きています。いま高校生生活も忙しく、人間関係の難しさが深まるなかで、集まること自体にも苦労があります。その中でも、一回一回の班会議や3分間スピーチ、一ページの「われ高」の読み合わせ、そのつみ重ねが高校生の生きる力となり、「悩んでいるのは自分だけじゃないって知れて、世界が広がった」「全然しゃべれなかったオレが、こんなにしゃべれるようになった」と、人間的成長を育んでいます。また、高校生班で成長した多くの同盟員が、職場・地域・学園の班のリーダーとなり、県・地区委員となって活躍しています。民青同盟が高校生の切実な願いにこたえ、生きることの喜びをひろげるためにも、民青同盟と青年運動の未来を担う次の世代をつくっていくためにも、新しい高校生班をつくり、班活動と高校生の成長を励ますことがいよいよ大切になっています。

班活動を日常的に援助する相談員はもちろん、「同盟員のお菓子の差し入れに高校生が大喜び」「学生の仲間がテスト勉強に協力」「いろんな職業の同盟員を呼んで進路企画を開催」など、地域班、職場班、学生班のメンバーができることもたくさんあります。県・地区委員会が持てる条件と可能性をくみつき、相談員の複数確立をめざすとともに、高校生を支える集団（高校生応援チーム）をつくり、ひろげることがよびかけます。

2、仲間を増やし、新たな高校生班をつくるため力をつくそう

「日本共産党の紹介で加盟した高校生が次つぎ友だちを誘って仲間に迎えている」「地域班と地区委員のメンバーで結びつきのある高校生を訪問し、班会に来てくれた」——いま、高校生班がない県・地区委員会も少なくありません。高校生の仲間を増やし、新たな高校生班をつくるには、高校生自身の増やしたい思いや行動とともに、県・地区委員会や相談員さんの知恵と力をあわせたとりくみが大きな力を握っています。2011年3月に予定している全国高校生集会をめざして、高校生分野の前進へ思いきって力を注ぎましょう。

● 高校生の話を聞くことが出発点——「やりたいこと」「知りたいこと」にこたえよう

同盟員や対象者の高校生の学校生活、授業や部活、クラスの人間関係、休日の過ごし方や家族のこと、好きな食べ物、趣味、得意なことと苦手なこと、「最近どう?」と声をかけ、何でも話を聞いてみるこゝとが出发点です。班会議に参加したり、対象者訪問にとりくみ、いっしょにごはんを食べたり遊んだりしながら、アンケートや会話の中で高校生の「やりたいこと」「知りたいこと」を聞き、「一つひとつこたえることを大切にしましょう。いじめや人間関係などを考えるしゃべり場、試験対策勉強会、クリスマスパーティーや誕生日会、戦争・被爆体験や貧困を考える学習などを重視します。

● 仲間に迎え、班活動を援助し、高校生の成長を

結びついた高校生に、「民青紹介ビデオ」やパンフを使って加盟をよびかけましょう。加盟するにあたっての不安、疑問に丁寧にこたえながら、ねばりづよく働きかけることが大切です。

迎えた高校生一人ひとりを大切にし班活動を支えるために、高校生応援チームで相談し、なんでも交流し、学び行動する。高校生が主人公の班活動をつくることに、なにより力をつくします。また、長期休みや土日、班活動のなかで、高校生の関心や願いにそくした科学的社会主義や日本共産党綱領の学習を重視します。迎えた高校生が民青同盟の魅力を実感し、友人や同級生を誘ってさらに仲間が増える流れをつくりましょう。

● 高校生応援チームの学習と交流、体制強化と一体で進めよう

このアピールを活用し、民青同盟に理解のある職場に勤める同盟員や、土日に休みがとれたり、仕事が終わる同盟員、学生同盟員などと、高校生分野のとりくみの大切さを話し合い、高校生応援チームに加わってもらいましょう。県・地区委員会で「高校生応援プラン」をつくり、目標をもって同盟拡大にとりくみ、新たな班の結成をめざすことが大切です。県・地区委員会で高校生応援チームの楽しい交流会を定期的にひらき、「われ高」を使って自分たちの高校時代の交流もしながら、相談員や高校生を援助するメンバーがなんでも相談できる場をもちましょう。対応する日本共産党と相談の場を持ち、力をあわせましょう。

「高校生が民青を『第二の家だ』と言ってくれた」「高校生班ができて地区全体が元気になった」——高校生班をつくり、発展させてこそ、日本社会を覆う閉塞感をのりこえ、未来をひらく力が発揮されます。県・地区委員会みんなで高校生分野の前進へ力をあわせることをよびかけます。

以上